

令和7年度 陸修偕行社慰靈祭の斎行



令和7年4月17日、令和7年度陸修偕行社慰靈祭が靖國神社において斎行されました。国家防衛のために尊い一命を捧げた陸・海軍将兵、更には戦争において国のために亡くなられた学徒、女子挺身隊員などの英靈を慰靈・顕彰し安らげく神鎮かみしづまらんことを祈念するとともに、感謝の念を捧げることができました。

陸修偕行社慰靈祭は、市ヶ谷台慰靈祭及び月例参拝を統一し、日清戦争終結の記念日に斎行することとなって4回目、陸修偕行社が発足してから2回目の慰靈祭でした。陸幕代表者、関係協力団体代表者、地方偕行会会长などをお迎えし、ご遺族、陸士・陸幼各期代表者、法人・個人賛助会員、家族会員、元自会員等約140名が参加しました。

慰靈祭に先立ち、市ヶ谷駐屯地慰靈碑地区において、陸修偕行社理事長 火箱芳文、ご遺族 中川聖様他、市ヶ谷台慰靈会会員が、陸軍大将 阿南惟幾茶毬の碑、陸軍元帥 杉山元及び陸軍大将 吉本貞一自決の碑、全陸軍航空部隊の碑、陸軍少佐 晴氣誠慰靈碑及び自衛隊殉職隊員の碑に対して、万感の思いを込め献花・拝礼を実施しました。

その後、慰靈祭参列者は靖國神社參集殿に集合し、大塚海夫宮司のご挨拶をいただいて拝殿に参進、開式の辞、元海自東京音楽隊 堀田和夫様及びご息女 町ともみ様のトランペット演奏による国歌齊唱の後、修祓、献餞、祝詞奏上、火箱理事長による祭文奏上、続いてトランペット献奏で拝殿での儀式を終了しました。次いで本殿に昇り、代表者による玉串奉奠に合わせて参列者が拝礼、最後にトランペット演奏「国の鎮め」により默祷、英靈の御靈に哀悼の誠を捧げました。

拝殿及び本殿における慰靈祭斎行後、靖國会館の直会では、国歌齊唱、火箱理事長・ご遺族代表 中川聖様・来賓代表 大塚海夫宮司のご挨拶、来賓紹介、祭電披露、森勉会長の献杯により会食・懇談、最後に「同期の桜」を唱和し、和気藹々の名残尽きない会となりました。